

ホーム名：グループホーム やすらぎ					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はわかりやすい場所に提示し入居者一人一人その人らしさを大切にし入居者の立場に立ったサービスの提供を職員に伝えています	事業所の理念を「共に生きる」という言葉にして居間の壁に掲示し普段から職員同士の会話の中にも取り入れている。	傾聴する、残存能力を発揮して家事などを一緒にする、家族のように寄り添う、「共に生きる」という言葉の中には様々な想いが込められている。職員は日常生活支援の中でその想いを管理者や先輩職員から受け継いでいる。
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の町会の行事に参加したりボランティアの受け入れ中学生の職場体験の受け入れ等実施しています。ボランティアセンターにも出来ることを協力する旨伝え交流促進に向け努力しています	自治会には入会していないが地域の行事は多く、岸和田祭り、ダンス大会をはじめ催し物へは積極的に参加できるよう支援している。地元の中学生の職場体験も2校から受け入れている。散歩時に声かけをしてくれる近隣の人もいる。	地域の催しにいつも気を配り、入居者が興味を持ちそうな事があればすぐ調べてみるなど、とても前向きに取り組んでいる。毎日の生活に彩りを添え、認知症の進行予防の為これからも地域との交流を続けられるよう希望する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	乱立する高齢者住とは違う立場でオレンジプランに沿った、グループホームとしての発信方法を今、施設三部署で模索しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では家族様や町会長の意見が多く聞かれるようになり介護相談員さんの参加によりアドバイスを受けることも多く、サービスの向上に役立っています介護保険課の担当の職員にもよく質問させていただいています	家族、町会長、市職員の参加が継続的に有り入居者への支援をいろいろな角度から行うことができている。その中で家庭環境や、事業所の抱える問題などについてもアドバイスを受けたりしながら改善に結びつけている。	毎回の議題に入居者の支援に関する事を重点的に取り入れられていて家族、施設、地域で支える支援として内容が濃くなっている。会議録への氏名の表現の仕方を再考され、また、議題としての福祉全般の中での事業所のこれからの役割などについても今後取り入れられてはどうかと提案する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村担当者の方と運営推進会議を通じ事業所の実情理解していただいたり家族会に来ていただいたりしており相談しやすい現状です	市の職員が積極的に運営推進会議にも参加、意見を出して事業所の運営についてもよく理解している。それにより介護保険課、福祉政策課とも情報を共有し早期の問題解決にも結びつく環境になっている。	市との協力体制が整っている事は運営においての安心に繋がる。今後も高齢者を地域で支える基盤として連携し協力体制を構築、継続される事を期待している。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は遅出が出勤時から17:00まで開放し 身体拘束はしていません これからも取り組んでいきます	昼間は玄関の施錠はされておらず出入り口のチャイムが人の動きを知らせている。施錠することで危険を防ぐのではなく、見守りをする事で入居者の自由を優先している。認知症になっても残存能力を発揮できる生活は、認知症の進行を遅らせる事に繋がっている。	ほぼ毎月行っている「認知症ケア指導会議」の内容を職員に回覧し、その中で具体的な拘束、虐待についての事例なども上げて説明し指導し、日常の支援の中でも管理者は職員と共に考えるように伝えている。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝のカンファレンスなどでも、度々話をしており 言葉の暴力についても 職員に意識してもらっています		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在は成年後見人制度を使われる方はないですが 職員研修も積極的に参加しています</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分に時間を取って説明し理解を得ております</p>		
10	6 <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見を聞き速やかに対応し運営に活かしています。また傾聴ボランティアの導入や介護相談員来所時にも個々の相談等が話せるようにしています</p>	<p>意見箱は玄関からホームの入口までの間に設置されているが苦情が入ったことはない。意見や要望は直接聞いたり運営推進会議や家族会などで聞いている。また、外部評価の結果は家族会で配布されている。</p>	<p>家族からの希望などを職員で共有するために「コミュニケーション報告書」も作成して回覧している。また、毎月送られる「家族へのお便り」も家族との楽しみにもなり、職員の励みにもなっている。</p>
11	7 <p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>職員の入退者で生じる問題や業務内容の変更などもスタッフの意見を反映し、また理解していただけるよう努力しています。個々の職員の意見も正職員の力を借りながら把握に努め 反映出来るよう努力しています</p>	<p>管理者の方から職員に対して、定期的に仕事の様子などを聞いていて、職員からの意見は管理者に届いている。職員の中でも先輩後輩に関わりなく意思の疎通が取られている。</p>	<p>今後もベテラン職員の知識や知恵と、新しく入った職員の意見をどんどん会議で出し合い、それぞれの想いを一つにして更に強力な素晴らしいチームとして温かい支援を続けられる事を期待している。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は病院の理事長であり話し合いは一切ありませんが就業規定に定義されており管理者が勤務表を作る時各自の希望を聞いたり就労条件の整備に努めています。昨年より同施設内で三部署会議を開催しており 施設全体で整備に努めています</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>資格取得推進の為の協力は惜しみません 研修の受講を実施しています 実践者研修・リーダー研修についても環境が整い次第行っていただきます</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>グループホーム間で相互交流の研修を行っています。情報交換会も年3回参加し、事業者連絡会の研修参加等の交流を行っています</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>センター方式を利用し ご家族様から入居者様の様子を教えていただき 入居者様の人となりを理解する努力をしています。また 施設に来ていただいたり 家庭訪問もさせていただきます</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居後は密にカンファレンスを行います。家族様に教えていただく事も多く 要望等はお話しいただけるような関係を作るよう努力しています</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>施設見学に来られた時に 自施設の特徴を紹介した上で 各グループホームでも内容や特徴が違うことを説明し、他施設の施設見学も推奨しています。認知症系の老人施設紹介も実施しています</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者の方から学ぶ事も多く 尊敬する事もあります 常に家族と同じ思いあるよう意識しながら暮らしを共にしています</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族様も家庭内でそれぞれ事情がある場合があり、双方の意見が食い違う場合は入居者の視点でお願いする事もあります。家族様とのきずなが細くならない援助を行いたいと思います。家族様とも納得のいく話し合いの場を持つようにしています</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの店に出掛けたり 岸和田城、トンボ池公園 牛滝山等 入居者が足を運んだと思われる場所に出かけます 近くのお大師さんの月参りは大寒や炎天下でない場合は行くようにしています</p>	<p>入居者の方が行きたいところをはっきり意思表示してくれるのもあり、馴染みのスーパー、薬局、お大師さんの月参りや季節の花の名所などいろいろな場所に行くようにしている。</p>	<p>行きたいところに行ける、会いたい人に会える、そのような望みがいつまでも叶えられるように、それが地域との関係の深まりにも繋がるので、これからも支援を期待する。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>孤立しているように感じる時は他入居者に声をかけ数人で会話をする等、常に職員が見守り、お手伝いの内容等のバランスも配慮しており利用者間の意思疎通を図る工夫をしています</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>死去された方の葬式の参列や退居先 入院先に行かせていただいています</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族さんからの情報提供や外出先、外食等本人の意向に添えるよう配慮しています	その人独自の「人生史」がわかるように個人記録に記録され「私ができること、出来ないことシート」により具体的に現在の様子が把握され、職員で共有されている。	昼間はあまり自分のことを口にしない人も夜間、眠れない時に職員と1対1でお茶をしながら本音が出ることもあり、そのような貴重な情報は朝の話し合いで申し送りされて共有されている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居の際にセンター方式を利用し記入していただき情報収集し、新たに得た情報はスタッフがカンファレンスにかけ共有しています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕の申し送り、カンファレンスで話し合いの場を設けています。数日は経過報告シートに記載し、心身状態の流れを把握共有しています。連絡ノートも使用し共有しています		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に2回 管理者 看護師 正社員でスタッフ会議を開きカンファレンスやモニタリングを行い、日常のカンファレンスで行った評価も行っています。暮らしに密着した計画を作成しております	家族の確認もその都度とり、短期目標を半年から1年としてきめ細かく見直ししながら介護計画を立てている。	1階の通所リハビリセンターの理学療法士との連携もあり、入居者の安心に繋がっている。目標を身近なことに設定し、日常のことを一緒にしてもらおうという管理者の確固とした考えの基生活の質をよくすることを念頭に置いた計画、支援が行われている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は共有し 全員把握しています。毎日の個別記録を参考にし介護計画の見直しやカンファレンスを行います		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	腰痛から鬱傾向になった入居者に看護師がディケアの理学療法士につなぎ、ホットパックを施行し元気になるれたり、靴や嚙下、車いすの調整等の相談もしています。車いすの方の入浴をディケアの大浴場で行うと自分で洗身出来るように回復し驚かされました		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	色々な催しに出かけ交流をしています。ボランティアの受け入れをはじめ 女性スタッフでは気を遣って駄目だという方のために傾聴ボランティアをお願いしています。毎日の散歩等近隣の方と対話します		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院の主治医がすぐに対応していただけます。休日、緊急時でも対応して下さいますが、必要時は看護師、管理者が適切に支援しています	定期的な訪問医による診療、内科・精神科との連携が確立されている。日常的には1階ディケア看護師による支援関係がある。	事業所は、これまで多くの周辺症状に対する支援を経験している。現在、穏やかな生活が入居者の笑顔から伺えた。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>看護師は階下のディケア兼務で午後やすらぎにきます 毎日の状況をチェックし服薬の準備などを済ませ気づきがあれば職員に指示が出来ます。緊急時には時間は関係なくすぐ対応しています</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>併設の病院には看護師や管理者が出向き情報交換しています 緊急対応の病院でも出来るだけ付き添い退院後の援助の仕方など適切に把握できるような関係を保っています 入院時の洗濯等施設で行い援助しています</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時にお話をしてもなかなか実感される家族さんは少ない為ある程度の時期に家族さんと向き合って対話します その時はそれぞれの思いを文章にし保存しております</p>	<p>これまで5人の看取りを経験してきたが前管理者が看護師としての技量が大きかった。現在、看取りを希望する入居者の確認はできていない。</p>	<p>事業所の理念”共に生きる”にもあるように住み慣れた生活環境、仲間、馴染みの職員の中で安定した生活がある。今後、医療機関との連携で看取りまで、入居者と共にある事を期待する。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>応急手当は実践出来ています マニュアルも有意義に活用しています 救急に至る前の段階で気づくことが出来るよう脱水 排泄 睡眠状態などの変化を共有しています</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練を実施 散歩時も時々非常階段を利用しています 町内会、併設病院等協力体制はお願しております 防災の会議を開き備品も購入しました 施設外に避難する時に首にかける防災連絡票も作り置いています</p>	<p>年2回、入居者参加で1階通所リハビリセンターと合同で、避難訓練を実施している。施設災害時の研修を受け、運営推進会議においても具体的な対策について話し合いが行われている。車椅子利用者の避難方法が課題である。</p>	<p>地域の災害対策と共に事業所の役割、避難場所としての提供等、地域との連携についても検討されたい。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>個人情報である記録等は保管場所を決め施錠できるようになっています。居室への訪問は必ず声かけを行い言葉づかいもスタッフ間で討議します</p>	<p>行動の静止をしない、「ダメ」を言わない、居室への入室は声かけを行う。</p>	<p>入居者に対する言動で不適切な支援に繋がらないよう今後も研鑽されることを期待する。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>個別対応を大切にしています 今までの生活習慣を配慮し支援しています</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>朝みんなで日課を決めます 入床、起床時間は決めていません 外出時は各個人の希望に沿った場所へ行けるよう支援します</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>入居者の状態に合わせて 訪問理美容師をお願いしています。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>盛り付けや片付けは入居者の方と職員と一緒にいきます 職員も一緒に食事をしています</p>	<p>調理された昼食が届き、入居者も職員と同じエプロン姿で盛り付け、配膳され、静かに黙々と食している食事風景がある。食後の食器洗いにも積極的にかかわり、仕事としている入居者の様子がある。</p>	<p>入居者は食べることに関心が高い。男女分担での調理は手慣れた様子で外食支援も楽しみの一つになっている、入居者が出来ることを支援することで日常生活に活気が生まれ心身を励ましていると思われる。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>栄養士による献立にてバランスよく食事が作られています 水分摂取は確保できるよう配慮しています デイルームにお茶を常備し自由に飲んでいただいています</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>各自食後すぐに口腔ケアの声掛けを行い付き添い援助もします。義歯は昼食後や夜間、洗浄液につけます</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>紙おむつから紙パンツに変更になった入居者もおられます。トイレ誘導 紙パンツ パット紙オムツ等各自に合わせて支援しています 排便、排尿の時間や有無は記録し共有する事で把握し 羞恥心に配慮しながら支援しています</p>	<p>入居者の行動観察で誘導支援し、朝食後の排泄を重視しトイレへ誘導し、昼間、紙パンツから布パンツに改善している。排泄に関する詳細な記録がある。</p>	<p>快食、快眠、快便の基本支援において努力されている。引き続き継続されることを期待する。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>朝食時、おやつ時 フルーツの提供も多く水分摂取量、運動量も便秘の予防対策として対応しています</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴の時間帯、曜日は決めています 本人のタイミングや希望体調により臨機応変に対応しています 夏場のシャワー等必要時は支援をしています 場合によってはディケアの大浴場を利用しています</p>	<p>浴室はゆったりスペースが確保され、浴槽は個浴に適した設備である。清掃も行き届き、換気状態も良好であり、ガラス越しに見える緑が露天風呂感覚も味わえる。入浴支援はマンツーマンで対応している。</p>	<p>男性職員がいないため同姓介助とはいかない。入居者の過半数が男性であることから男性職員の起用で支援を深められたい。</p>

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間入床時間は決めていません 散歩やレクの合間は居室で臥床したり ソファで休息したりと自由に生活されています スタッフとの信頼関係を密にし支援しています		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストは職員がいつでも見られるよう個人記録に閉じており事務所に保管 服薬変更は看護師もしくは管理者から説明しています 服薬は複数のスタッフがチェックするほかチェックリストも活用し間違いの無いように支援しています		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、片付け、洗濯干しなど個人の力を見極め手伝っていただいたり 花壇を作り 手入れ、水やりをしていただいています 毎日外出することが一番 気分転換になっているようです		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候不順でない限り 散歩に出かけます 最近は車で遠出をすると途中に買い物に寄りたい店が出来てきました。希望があれば 買い物をして帰ってきます。桜の花見時は家族さんの同行もあります	毎日50分、入居者全員、外出散歩が日課となっている。事業所は2階であるが階段での昇降者も多い。日課以外に車でのお食等、外出の機会が多い。	毎日、昼食前に外出、外気浴は勿論の事、四季の変化を感じ、近隣住民との交流を通して心身共に、リラックスできる日常生活を支援している事業所の評価は高いと考える。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数人の方がお金を所持しています 月参りのお寺にお賽銭を出したり電話をかける際に使っています		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	公衆電話もあり、職員が支援し電話をかけた後、手紙、ハガキは施設の住所を書き加えさせていただきます 一緒に投函に行きます		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には入居者とともに季節の飾りつけを作成し 中庭からの採光は充分取り入れています 温度計の設置 空気清浄機の設置等 居心地のよい環境にしています トイレも広く使いやすくなっています	一見、ホテルのロビーのような空間で、広々としている。入居者の全員の顔写真が笑顔で展示されている。朝の話し合いで今日のレクを決め計画が書き込まれている。今月の誕生日の入居者の名前が張り出されている。車椅子利用の入居者は自分の足で自由に移動している。	フロアにはいくつもの死角がある。数カ所に置かれているソファで時を過ごす入居者が「観葉植物からエネルギーをもらっている」という。トイレの扉が特殊で車椅子での出入りが難しいのでは？生活に馴染みにくいのではと感じる。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は有意義に活用し 観葉植物を配置し椅子を置いたりテレビの周りにソファを置くなど工夫しています		
54	20 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室室内も広い為個人の愛着のある家具等多くのものを配置していただいています 家族さんも多くの写真や飾り物を持って来られ 一緒に楽しまれています	居室の入り口には花の名（部屋名）と大きな字での表札がある。室内はクリーム色調、ベランダ側には障子を通して優しく採光を採っている。管理者の案内で、各室入居者の個性が伺えた。	居室は入居者一人ひとりの現在の在り様を伝えるものであった。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札は漢字に振り仮名をふっていますが 理解が難しい方や背の低い方には目線に合わせた位置に表札を作っています。トイレ、風呂場もわかりやすく表示しています		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない